

# 平成24年度 Q I の設定と改善のための活動報告

11

部署名	中央臨床検査部	代表者	山本 昌彦
-----	---------	-----	-------

## 1. 設定した指標

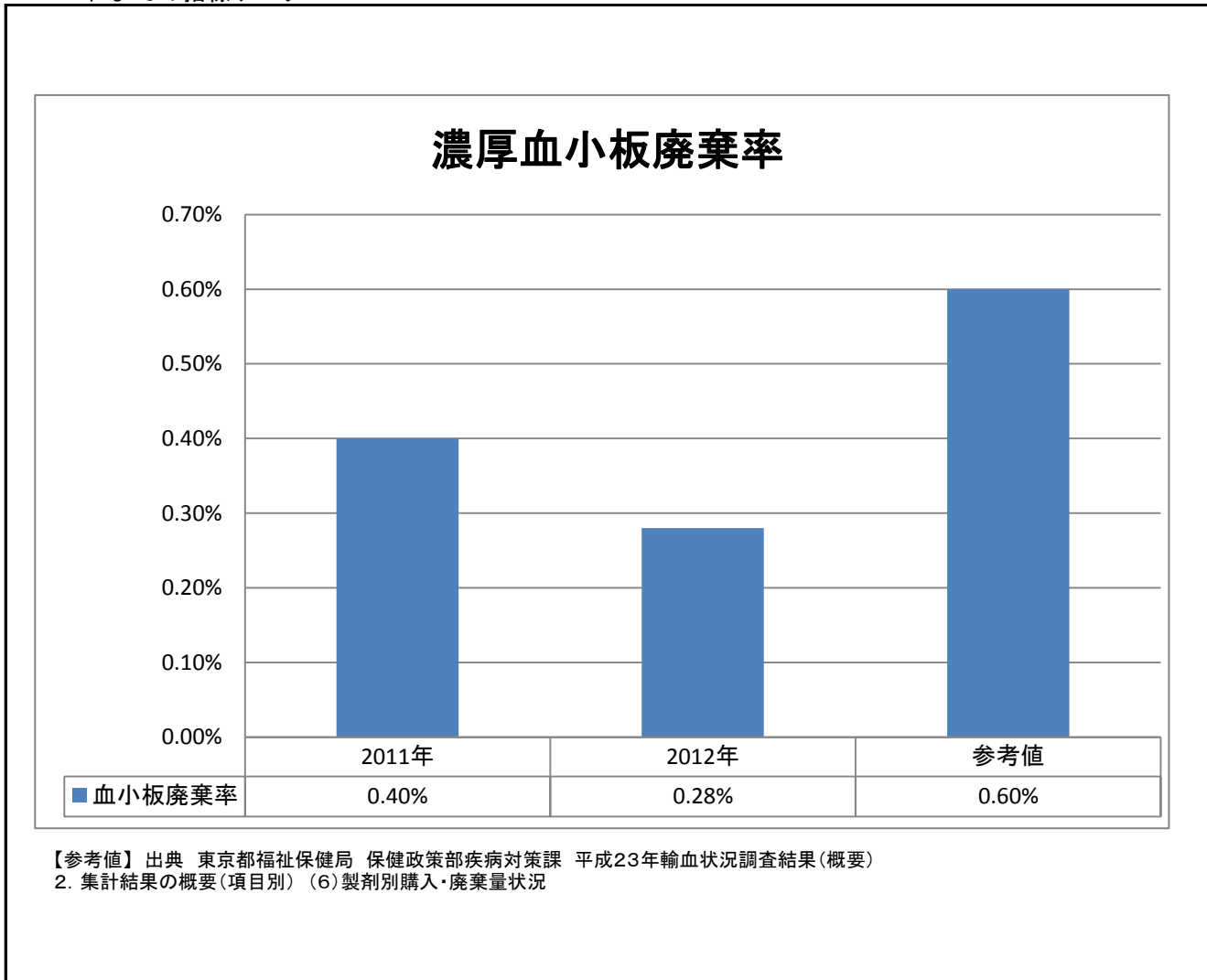
濃厚血小板の廃棄率

## 2. 指標の説明

**【指標の説明】**  
 輸血用の血液製剤は、安全で適正に無駄なく使用されなければならない。濃厚血小板製剤の廃棄率の調査を行い、貴重な輸血製剤を大切に使用するために取り組んでいる。

**【目標値】**  
 濃厚血小板の廃棄率が限りなく0%に近づくこと

## 3. これまでの指標データ



○ 分母・分子、除外データ、データ抽出元など

**【廃棄率の定義】**  
 分子: 廃棄濃厚血小板製剤単位数  
 分母: 血液センターより購入した濃厚血小板製剤単位数

#### 4. 評価及び指標改善に向けて行った活動など

廃棄原因の一つである取扱い不良については、振とうせずに保管されていた事例や穿刺時にバックを破損した事例があった。手術予定で購入したが急遽手術が中止になった事例や、輸血する直前に宗教上の理由が判明して、輸血中止となり廃棄された事例もあった。患者の状態が好転したため不要になった分は、個別に輸血部から転用できそうな患者の主治医に連絡をとって転用したが、休日などで輸血部が不在で転用できなかった事例もあり廃棄につながった。その点をふまえて、輸血部の取り組みとして、使用中止決定後はすみやかに輸血部（夜間休日は緊急検査室）に連絡するよう臨床側に協力を求め、血液センターとも密に連絡をとるよう努力した。その結果、濃厚血小板製剤の廃棄率が2011年0.40%から2012年0.28%に減少した。